

令和7年度 かほく市立外日角小学校 学校評価計画

重点目標	取組内容		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 確かな学力の育成	ア	授業力・指導力の向上★	学習指導部	子供主体の授業を目指して、重点を「主体的に自己決定し、学びが深まる工夫」とし、3つの視点(児童が①見通しをもって学び方を選択するための工夫②自分の考えを深めたり、広めたりするための工夫③学び方や変容を振り返るための工夫)から授業づくりをしていく。	【成果指標】 3つの視点の中から1つ以上を取り入れた授業を行っている。	一日の授業で、 A：週4回以上できている B：週3回以上できている C：週2回以上できている D：ほとんどできていない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、学年研やブロック研で取組を検討する。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	イ	学習規律の定着、基礎基本の定着・習熟	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞こうとする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】 話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	ウ	読書活動の充実	学習指導部	低学年は、図書館に楽しんで通う姿が見られるが、高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】 週に1回図書館を利用する児童が80%以上である。	A：80%以上の児童があてはまる B：70%以上の児童があてはまる C：60%以上の児童があてはまる D：50%以上の児童があてはまる	児童・教員評価 Aが80%以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
2 生徒指導の充実	ア	基本的生活習慣の徹底	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しずつ元気になっているが、安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】 自分から進んでいいあいさつをしている。	A：90%以上いる B：80%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童・保護者対象に調査
	イ	いじめ・不登校の組織的対応の徹底★	生徒指導部	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを管理職・学年間・保護者へ丁寧に報告・連絡している。気になることは必ず管理職・学年間・保護者へ報告・連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して管理職・学年間での情報共有、また保護者への電話、面談、訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
	ウ	校内支援センターの有効活用 児童にとって安心・安全な居場所づくり★	生徒指導部	自己肯定感が低く、学校が楽しくない(C,D)と感じている児童が約11%いる。	【満足度指標】 児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか(楽しいと言っている)」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A：90%以上いる B：85%以上いる C：80%以上いる D：80%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	毎月児童に調査 7月、12月に保護者対象に調査
3 豊かな心の育成	ア	道徳教育の充実	学習指導部	学校行事や体験活動等との関連を図ったり、道徳の教科書をもとに、いしかわ版道徳教材やG.Tを活用したりして、個々の児童が、思いやりの心を持ったり、夢や目標を持ったりするように、共通実践を蓄積する必要がある。また、規範意識の向上も必要である。	【努力指標】 中心発問の吟味と道徳揭示の蓄積をしていく。	A：毎時間すべてできている B：おおむねできている C：あまりできていない D：全くできていない	教員評価 A+Bが100%未満の場合、授業のあり方について検討・改善をする。	7月12月に教員対象に調査
	イ	特別活動の充実	特別活動部	なかよしグループ活動には、楽しく参加しているが、協力し合ったり、助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し、楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童対象に調査

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 健康・安全 教育の推進	ア	体力の向上★	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが、運動能力調査の結果に反映されるまでには至っていない。また、運動を好まない児童もいる。	【成果指標】 マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み、体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して、AもしくはBと答えた児童が A：90%以上いる B：70%以上いる C：50%以上いる D：50%未満いる	達成度がB以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員・児童対象に調査
	イ	危険予測能力、事故回避能力の育成	保健安全指導部	登校時の交差点の渡り方や下校時の道路の歩き方に課題が見られる。特に低学年児童で怪我が多い。	【成果指標】 交通ルールを守って安全に怪我無く道路を歩くことができる。また、非常時において避難の仕方が分かる。	「歩き方や自転車の乗り方、災害時の行動に気を付けていますか（交通事故や災害から身を守る習慣が身についている）」に対して、AもしくはBと答えた児童・保護者が A：90%以上いる B：80%以上いる C：70%以上いる D：70%未満いる	達成度がC以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に児童・保護者対象に調査
5 教職員の 人材育成・多 忙化改善	ア	学校運営の参画意識を高める	管理職	昨年度までは、一人に業務が集中することもあったが、今年度より、業務を細分化し、できるだけ一人一役となるよう担当を割り振り自覚をもって公務を遂行を心がけられるようにする。	【努力指標】 自分の担当に見通しをもち、提案・運営を積極的に行う。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
	イ	研修の充実 若手主体で取り組む 若プロ	教務部	担当としての研修会や都市教育課程研修会の参加のみになっている教職員が見られる。	【成果指標】 主体的に若プロ等の研修会に参加する。 主体的に相互授業参観に参加する。	A：全て参観できた B：学期に2回参観できた C：学期に1回参観できた D：参観できなかった	教員評価 A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
	ウ	教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保 教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から、ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】 週2回以上19時00分までに退校している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bが90%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
6 学校間・家庭 連携・強地 域、学校種	アイ	架け橋期の目標の具現化と小中接続を意識した指導の推進★	教務部	架け橋期では、幼保小連絡会やスタートカリキュラムを活用してスムーズに学校に慣れることができている。小中連携では、中学校の規律等のルールに戸惑う生徒も見られる。	【努力指標】 幼保小連絡会、スタートカリキュラム、小中連絡会での情報共有を活かして指導にあたる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価（1，6年生） A+Bが80%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員に調査
	ウ	各種便りやホームページ等の情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新している学年と更新していない学年の差がある。	【成果指標】 定期的にホームページを更新する。	A：毎週更新している B：隔週で更新している C：月1回で更新している D：一月以上更新していない	達成度がA以下の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員対象に調査
7 カリマ ネ	ア	カリマネの充実	教務部	教科横断の関連単元を学期に1つ以上設定し、確実に取り組むようにしている。	【努力指標】 学年会でカリマネの成果と課題について話し合い、教科横断を学期に1回以上、取り組む。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価（1，6年生） Aが100%未満の場合、取組の検討・改善をする。	7月、12月に教員対象に調査